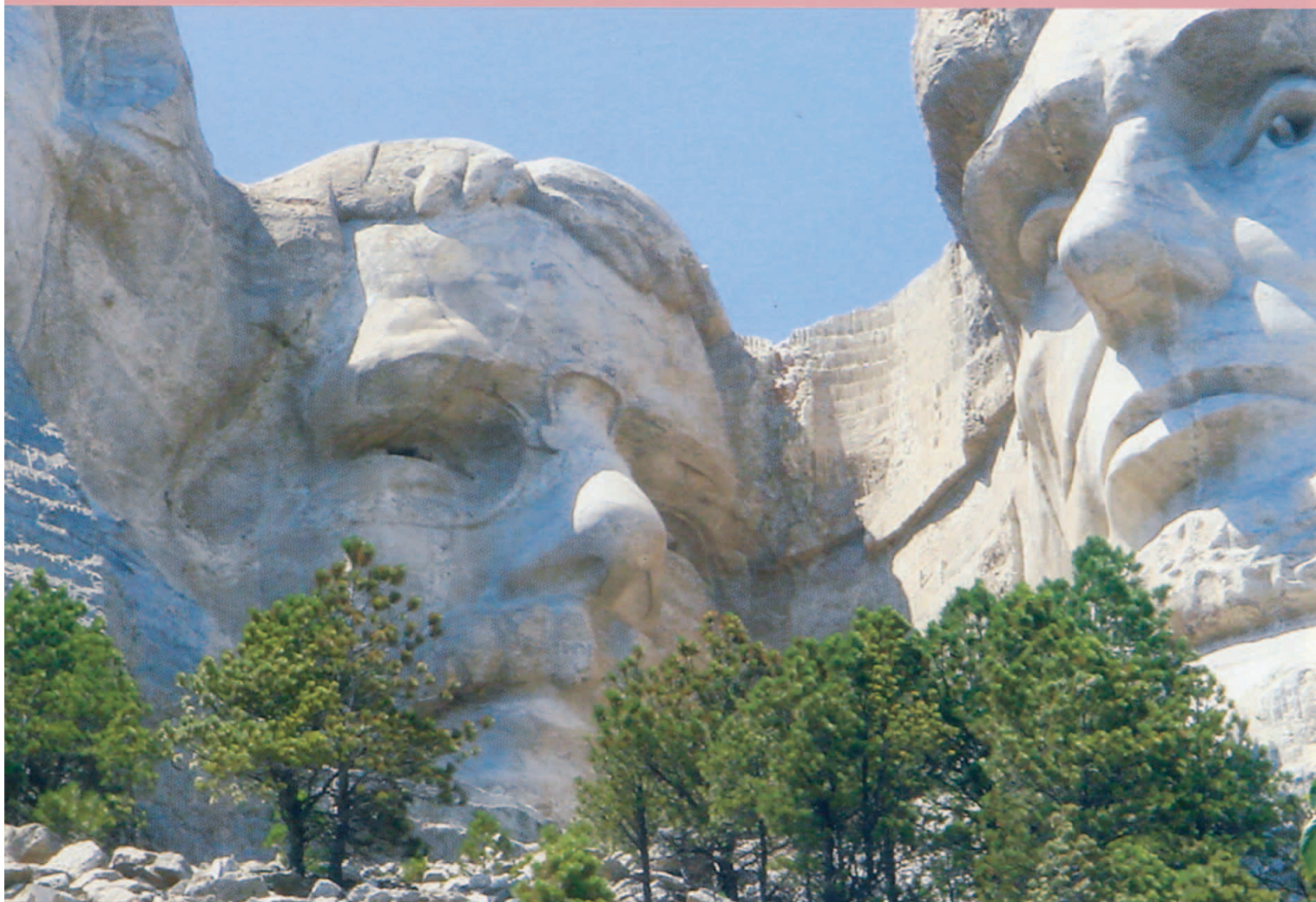


発行日 平成23年（2011年）12月

Nikko City International Association

Vol.11

日光市国際交流協会会報



日光市国際交流協会シンボルマーク決定!!
ラピッド市姉妹都市協会からの義援金

ラピッド市中高生派遣事業

日光市の海外姉妹都市アメリカ合衆国サウスダコタ州ラピッド市と毎年夏、中高生の相互派遣を実施しています。今年は震災の影響でラピッド市から中高生の派遣はありませんでしたが、7月21日～8月1日の日程で日光市の中高生12名がラピッド市を訪れました。ボランティアのホストファミリー宅にホームステイをしながら、様々な体験をしました。有名なマウントラッシュモアやクレージーホースなどを見学したり、カヤックやロッククライミングにも挑戦したりと、ラピッド市の雄大な自然に触れてきました。初めは言葉や習慣の違いに戸惑っていた生徒達も、温かなラピッド市の人々との交流や多彩なプログラムを通じ、忘れられない思い出を沢山作ることができました。



ロッククライミング

こんなに高い岩もスイスイ登りました。



ホストファミリー

やさしいホストファミリーとすっかり仲良しに。



マニキュア

本場のマニキュアを体験。
おしゃれにも余念がありません。



西部劇風の写真

きまっていますか？

鹿沼南高校2年 大岡 成美

○ホストファミリーとどんなことをしましたか？

ボーリングや映画、教会、ロデオなどに連れて行ってくれました。美味しいご飯を作ってくれたり、時々アメリカンジョークで笑わせてくれました。

○アメリカで驚いたことは？

トイレのドアの下部分が30cm位空いていて、入っている人の足が見えたこと。自分が入った時はこう見えるのかと少し恥ずかしかったです。それと、洗剤のボトルと同じくらいの大きさのボトルに入った飲物や抱き枕サイズの挽肉がスーパーで売っていたこと。日本では考えられない大きさで驚きました。

○ラピッド市に行った感想は？

短期間でしたが、アメリカの人々の優しさや文化の違いを学びました。ラピッド市の人々やホストファミリーに出会えて本当に良かったです。皆と過ごした日々を絶対に忘れません。この経験を将来に活かしていきたいです。大人になったらもう一度ラピッド市に行きたいです。

日光市国際交流協会のシンボルマーク決定



8月下旬から9月までの間、日光市国際交流協会のイメージにふさわしいシンボルマークを募集いたしました。市内外はもとより、北は北海道から、南は長崎県、宮崎県まで全国各地の123名から、222点の応募がありました。たくさんのご応募をいただき、ありがとうございました。

採用作品の選考にあたりましては、企画・広報部会による第1次審査において26点に絞込み、その後、役員会による最終審査において最優秀作品（採用作品）及び優秀作品（3点）を決定しましたので発表いたします。最優秀作品（採用作品）については、今後、会報などの印刷物をはじめ、ピンバッチ・協会旗なども作製し、協会のPRに活用を図って参ります。

□最優秀作品（シンボルマーク採用作品）

大阪府大阪市 森 亜沙子 様 31歳 デザイナー
制作意図（コンセプト）

日光の頭文字「N」が地球と手を取り合っているように、はたまた地球におじぎをしているような小さく見せて、国際交流は言葉ではなくジェスチャーからはじまり、心で交流ができるようなイメージを表現しました。

□優秀作品（3点）

宇都宮市 北村 公司 様 56歳 イラストレーター
宇都宮市 福富 祥子 様 23歳 学生
大阪市 塩崎 エイチ 様 66歳 グラフィックデザイナー

ラピッド市姉妹都市協会からの義援金

今回の東日本大震災につきましては、地震発生直後から日光市の被害状況の問合せやお見舞いのメールをいただいております。そのような中、去る5月31日にラピッド市の協会から日光市に\$8,300の義援金が贈られました。これは協会関係者による募金をはじめ、協会が中心となって地元新聞紙上での呼びかけや、オークション、支援コンサートを開催して集められた浄財とのことです。

ラピッド市との交流が始まって約20年、お互いの信頼関係があつてのことと思います。

また夏期交流の際には「がんばれ日光」と寄せ書きされた日の丸が贈られました。贈られた日の丸は現在、市役所コンベンションルームに掲示されています。



イベントレポート



平成 23 年度総会

5月13日

平成 22 年度事業報告及び決算報告、平成 23 年度事業計画及び予算が承認されました。総会終了後、会場を「ブライダルパレスあさの」に移し会員相互の親睦と交流を図るため懇親会を開催しました。



国際理解講演会 食から世界を考える「ドイツ編」
～イモだけじゃないドイツ～

7月4日

宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センターとの交流事業として、今年も「食」をテーマにした講演会を3回実施します。1回目はドイツ編。センター員の高橋優先生からお話をいただきました。ドイツのソーセージ、パンやハーブティーを試食する時間も設けられ、ドイツの食についてや日独交流150周年のお話を伺いました。



ハロウィンかぼちゃ栽培体験

第1回：6月4日 第2回：7月23日

第3回：9月23日【雨天中止】

毎年人気のイベント「ハロウィン体験」のランタン掘りで使うかぼちゃを栽培する体験をしました。参加した10家族は、今年も日光市4Hクラブの指導の下、1回目はビニールマルチ張りや苗植え、2回目は大きくなった苗の手入れをしました。およそ70個のかぼちゃを収穫することができました。ハロウィン体験では、そのかぼちゃを使ってランタンを作りました。



4 部会合同視察ツアー
「豊洲オクトーバーフェスト2011」

9月4日

東京豊洲で開催された、ドイツのミュンヘン市で毎年行われるオクトーバーフェストを模したイベントを見学しました。本場ドイツのビール、ソーセージにデザートをいただきながら、参加者はドイツの雰囲気を満喫しました。



作って食べよう世界のごはん ～上海編～

10月8日

協会会員で上海出身の佐竹千鶴さんを講師にお迎えし、上海のシュウマイとワンタンを作りました。もち米を使うシュウマイと、エビと青梗菜を使うワンタンはボリュームがありました。上海では主食として食べられているそうです。同じ料理でも日本とは違う内容に驚きました。佐竹さんお手製のチーズケーキも振舞われ、美味しくいただきました。



ハロウィン体験

10月29日

今年もたくさんの子供たちが工夫を凝らしたコスチュームに身を包み、ハロウィン体験に参加しました。「トリック・オア・トリート」と叫んでキャンディーをもらうゲーム、トイレットペーパーを体に巻いてミイラ作りをするゲームをしたり、協会で6月から栽培したかぼちゃでオリジナルのランタンを作ったりしました。イベント部会のみなさん手作りのかぼちゃのチーズケーキをいただき、楽しい1日を過ごしました。



外国人向け日本語教室

毎週第1・2・4木曜日の午後7時より市民活動支援センターで、ボランティアによる日本語教室を行っています。学習者はバングラデシュ、パキスタン、アメリカなどの出身者で毎回10名程度参加しています。レベルに合った内容をマンツーマンまたは2～3人のグループで学習しています。

詳しい内容は、協会ホームページでも公開しています。日本語を教えるボランティアの方も募集中です。

世界の国々 ⑧ ～中国編～

日光市には、25カ国から来た外国人の方が約600人暮らしています。そこで、彼らの母国について文化や習慣などを中心にシリーズで紹介しています。今回は協会の会員で中国、上海市出身の佐竹千鶴さんに中国について紹介していただきました。

中国基礎データ

- 国名：中華人民共和国
- 首都：北京
- 面積：約960万平方キロメートル（日本の約25倍）
- 人口：約13億人
- 言語：漢語（中国語）
- 通貨：人民元（CNY）1人民元≒12.1円



私の出身地、上海は日本との距離も近く、気候、文化、生活習慣など、とても似た点が多いです。今回は、日本とは全く違う点をいくつかご紹介したいと思います。

★ 6月の受験

中国の学校の新学期は毎年9月に始まります。毎年受験生達は6月の暑さに耐えて猛勉強して進学テストを受けます。

★ いつでもチェックインできるホテル

中国のホテルのシステムは、日本のホテルと少し違います。チェックインの時間に指定はありません。チェックアウトは24時間以内になります。料金は「1部屋1日〇〇元」と計算して、泊まる人数は関係ありません。1時間1部屋いくらかと計算するホテルもあるんですよ。そのため旅行先で気軽にホテルを利用することができます。

★ 「漬物」と「ゆば」はお土産にできない!?

日本では漬物をお土産にすることが多いですが、上海人に漬物をお土産にするのは良くないです。上海では漬物はとても安い物というイメージがあるのです。ちなみに「ゆば」などの豆腐類をお土産にするのは絶対に“No”です。なぜなら、上海では家族が亡くなり、葬儀の終了後に「豆腐飯」と呼ばれるものを食べるからです。もし誰かに豆腐類の製品をあげたらきっと怒られます。

★ 食べきれない量の料理が出てくるのはどうして?

中国の中華料理は量が多くて頑張って食べても残ってしまうのです。昔はお皿が空っぽになれば料理を出したレストランや招待した人がケチだと思われたのです。現在はその考えも少しずつ変わりつつありますが、お客様を招待するときはやはり多めに出すようにしています。もし中国の家庭に招待された時は、食べきれずに残しても大丈夫ですよ。



トマトと卵の炒め物



- | | | | |
|-------|------|------|--------|
| ・トマト | 中2個 | ・塩 | 小さじ3/4 |
| ・卵 | 4個 | ・砂糖 | 少々 |
| ・サラダ油 | 大さじ5 | ・味の素 | 少々 |



- ① トマトの皮を剥いて小さく切る。
- ② フライパンにサラダ油大さじ2を入れ、トマトをよく炒める。強火でトマトのソースが出るまで炒める。
- ③ 炒めたトマトを別のお皿に移す。
- ④ フライパンにサラダ油大さじ3を入れ、卵を強火で炒める。
- ⑤ 卵が少し固くなったら中火にして、トマト、塩、砂糖を入れ炒める。
- ⑥ 火を止めて味の素を少々入れる。



これからの予定

1月28日(土) ・作って食べよう世界のごはん～ソウル編～

2月8日～29日 ・日本語教授法 (毎週水曜・全4回)

2月～3月 ・作って食べよう世界のごはん 2回予定
・国際理解講演会 食から世界を考える「タイ編」
・大使館訪問ツアー
・4部会合同劇団四季ミュージカル観劇ツアー
・ポットラックパーティー

*会員の方には随時お知らせいたしますのでぜひご参加ください。

協会データ

個人会員 314名
家族会員 32家族
法人会員 58社

外国人登録者数

592名

平成23年12月1日現在

お知らせ

◆会費の納入について

まだ会費を納入されていない方は下記の方法により納入下さい。

①現金を協会事務局へ持参。

②当協会預金口座へ振込 (振込手数料は各自負担)

※振込先の金融機関については事務局にお問い合わせ下さい。

◆会員募集のお願い

当協会では随時会員を募集しています。国際交流に興味のある方をぜひお誘い下さい。

♥年間会費♥ 個人…3,000円 家族…5,000円 法人…10,000円

◆E-mailでの情報提供

経費節減のためE-mailで通知やイベント情報をお送りしています。ご協力いただける方は事務局にご連絡下さい。(容量の関係で携帯アドレスはご遠慮下さい)

募集



◆ホストファミリー登録

海外からの短期訪問者を家族の一員として受け入れてくださるホストファミリーを募集しています。

◆日本語教室ボランティア

毎月第1・2・4木曜日 日光市民活動支援センターにて在住外国人向けの日本語学習会を行っています。ボランティアで日本語を教えていただける方を募集しています。

◆国際理解のための学校支援講師派遣

日光市では子ども達に国際理解の大切さを学んでもらうため、市内の小中学校に異文化を紹介していただく外国人の講師を派遣しています。

外国籍の方で自国の文化(歴史、料理、音楽、舞踊等)を紹介していただける方を募集しています。お知り合いの外国人の方にもお知らせ下さい。

◆翻訳・通訳ボランティア

市で発行する資料等の各種言語への翻訳や、海外からの訪問者の通訳などに協力いただける方を募集しています。資格等は必要なく英語、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語など言語は問いません。ご協力をお願いします。

※興味がある方、登録を希望される方は事務局までご連絡下さい。

お問い合わせ

日光市国際交流協会事務局

〒321-1292 日光市今市本町1番地 TEL 0288-21-5196 FAX 0288-21-5121

E-mail kankou-kouryuu@city.nikko.lg.jp http://www.nikkocity.org